ウ　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳

区分	管理部等	資産名称	種類	損益計算書に計上した金額	損益計算書に計上していない金額
A	観音台第２管理部	常陸大宮研究拠点	建物	18,320,481円	10,708,110円
			構築物	10,700,415円	54,594,090円
B	北海道管理部	美唄試験地	土地	0円	39,164,000円
			建物	1円	17,705,399円
			構築物	613,800円	99,861円
C	藤本・大わし管理部	天敵飼育実験棟	建物	1,807,123円	2,896,150円
C	北海道管理部	サンプル冷蔵室	建物	957,212円	196,092円
C	北海道管理部	イネ科牧草隔離温室	建物	0円	3,373,355円
C	九州沖縄管理部	第２便所	建物	0円	17,800円
C	九州沖縄管理部	第１温室	建物	0円	877,649円
C	九州沖縄管理部	第２ガラス室	建物	0円	685,581円
C	九州沖縄管理部	土壌置場	建物	0円	65,070円
C	九州沖縄管理部	第２温室	建物	0円	803,565円
C	九州沖縄管理部	第３温室	建物	0円	789,864円
C	九州沖縄管理部	第４温室	建物	0円	715,560円
C	九州沖縄管理部	第３ガラス室	建物	0円	674,670円
C	九州沖縄管理部	降雨遮断ガラス室	建物	0円	1,680,970円
			構築物	0円	1円
C	九州沖縄管理部	ガラス室	建物	0円	1,165,388円
C	九州沖縄管理部	鉄骨ビニールハウスほか	構築物	0円	122,503円
C	九州沖縄管理部	温室(3)	建物	575,258円	2,700,006円
			構築物	0円	1円

エ　回収可能サービス価額の算出方法

区分Ａ資産の土地については、正味売却価額により測定しており、当該正味売却価額は不動産鑑定評価額を使用しております。回収可能サービス価額が帳簿価額を下回ると認められないため、減損損失額は計上しておりません。

建物及び構築物については、老朽化により売却見込みがないことから使用価値相当額により測定しており、当該資産の使用が想定されていないことから０円として算出しております。

区分Ｂ資産の土地については、正味売却価額により測定しており、当該正味売却価額は不動産鑑定評価額を使用しております。帳簿価額が回収可能サービス価額を上回るため、回収可能サービス価額まで減損しております。

建物及び構築物については、老朽化により売却見込みがないことから使用価値相当額により測定しており、当該資産の使用が想定されていないことから０円として算出しております。

区分Ｃ資産は、老朽化により売却見込みがないことから使用価値相当額により測定しており、当該資産の使用が想定されていないことから、回収可能サービス価額を０円として算出しております。

②　当事業年度において減損の兆候が認められた固定資産は以下のとおりです。

ア　減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、場所等の概要

区分	管理部等	資産名称	用途	場所	種類	使用しなくなる日
A	東北管理部	家畜排泄物処理施設	研究業務用	岩手県盛岡市	建物	—
B	観音台第１管理部	根圏環境動態解析実験棟	研究業務用	茨城県つくば市	建物	令和９年度以降
					構築物	
B	観音台第１管理部	第１共同実験棟	研究業務用	新潟県上越市	建物	令和９年度以降
					構築物	
B	観音台第１管理部	昆虫飼育室	研究業務用	新潟県上越市	建物	令和９年度以降
					構築物	
B	観音台第１管理部	世代促進用温室	研究業務用	新潟県上越市	建物	令和９年度以降
					構築物	
B	観音台第１管理部	第２共同実験棟	研究業務用	新潟県上越市	建物	令和９年度以降
					構築物	
B	観音台第１管理部	暖房機械室	研究業務用	新潟県上越市	建物	令和９年度以降
					構築物	
B	観音台第１管理部	渡り廊下　№49	研究業務用	新潟県上越市	建物	令和９年度以降